（様式３）

５　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和６年度　福岡高等学校アクションプラン　―１―		
重点項目	学習活動（教科指導の充実）	
重点課題	教科指導の充実・教育力の向上と「主体的に学習に取り組む態度」の育成	
現　　状	・評価観点の１つにある「主体的に学習に取り組む態度」を養うため、授業でも生徒の知的好奇心、学習意欲、探究心を引き出す工夫が求められる。授業改善を実現するために、生徒の実態に即した教科指導の充実・教育力の向上が求められている。 ・生徒の自主的学習習慣の定着を図るには、生徒の意識改革も必要となる。指導と評価の一体化を目指すために、教員個人の研究だけでなく、それを教員間で共有し意見交換することで学校全体の教育力の向上を目指すことも大切である。	
達成目標	①　互見授業の参観回数　１人３回以上 教科指導に関する教科部会の開催回数 ４回以上（互見授業に関する部会、事後研修を含む）	②生徒の学習に対する満足度 自己評価シートの学年平均 2.9 点以上/４点満点（72.5%）
方　　策	・年間随時、互見授業を実施し、相互に意見交換を行うことで授業改善につなげるとともに、教科部会を開き教科全体で事後研修を行う。 ・外部の研修会や研究会の研修内容や授業改善の取り組みなどを教科や学年で共有し、指導や評価方法等の改善に努める。	・授業や課題等、学習への取り組み状況について、生徒の自己評価を実施する。 ・学習状況調査や自己評価集計をもとに個人面談を実施し、生徒の実態と学習や将来に対する意識を把握する。 ・学年担当者で、教科バランスを考えて課題の内容や量を調整し、生徒の自主的学習が定着するよう工夫する。

令和６年度　福岡高等学校アクションプラン　―２―		
重点項目	学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）	
重点課題	基本的生活習慣の確立と学校生活への適応	
現　　状	・素直でおとなしい生徒が多く、平素からの挨拶が不得手な生徒が見られる。 ・自分の気持ちを表現することが苦手な生徒が見られる。 ・思春期における心の問題を抱えている生徒がいる。 ・普段の掃除に加えて、始業式・終業式の時には大掃除を、７月にはワックスがけを実施している。	
達成目標	①　さわやかに挨拶しようと心がけた生徒の割合 90%以上	②　心の相談日や教育相談の実施 年間 15 回前後 ③　特別清掃（大掃除やワックスがけ）の実施　　年間７回以上
方　　策	・ 自治委員による働きかけ ・ 定期的（月１回）な挨拶・服装指導やさわやか運動などでの働きかけ （部活動生徒にも協力してもらう） ・教職員側からのさわやかな挨拶 ・生徒指導部、学年、保健厚生部が連携し、生徒の悩みや問題行動について早期発見と迅速な対応に協力して取り組む。	・カウンセラーによるカウンセリングが必要な生徒を把握し、実施後には関係者と協議をする。カウンセラーによる講演会を実施する。 ・大掃除やワックスがけを実施し、生徒の学校美化意識を向上させる。

令和６年度　福岡高等学校アクションプラン　―３―		
重点項目	進路支援（進路目標の設定とその実現）	
重点課題	進路意識の高揚と、納得のいく進路選択の実現、新課程入試への適切な対応	
現　　状	・自己の能力・適性に対する認識が十分でないため、将来の自分のあり方に対して、主体的に考えることができない生徒がいる。 ・学期や学年の進行とともに進路意識を高められる指導と、新課程入試に臨む３年生には受験に向けた適切な支援を行う必要がある。	
達成目標	①　進路講話などによる進路意識の向上 校内での進路講話等 各学年年間２回以上	②　受験への取り組みに対する満足度 （卒業時：３年生対象） 満足：60%以上　不満：10%未満
方　　策	・１年生に対し『職業人が語る会』を実施し、自己の将来について主体的に考える姿勢を伸長させる。 ・２・３年生に対し、本校を卒業した現役大学生による進路ガイダンスや外部講師による進路講話を実施することにより、具体的な進路目標を持たせ、主体的に学習する態度を育成する。 ・３月に、卒業した３年生が２年生に講話を行うことで、具体的な進路意識と学習意欲を高める。	・面接を通して生徒の進路希望を充分に把握し、受験校の選定や学習に対する助言・支援を行う。 ・新課程入試に関する新しい情報をいち早く正確に生徒に伝達する。 ・入試動向や校内テスト・外部模試の分析結果を、学年会や進路検討会等で情報を共有し、面接や教科指導等に生かす。 ・教科や小論文の添削、面接指導等の個別指導を、全校体制で計画的に実施する。

令和６年度　福岡高等学校アクションプラン　―４―		
重点項目	特別活動（ボランティアと図書）	
重点課題	ボランティア活動の実践 活気ある委員会活動の継続と全校生徒の読書習慣の定着	
現　　状	・ボランティア委員会や部活動を中心とした地域施設への訪問・交流等を継続して行い地域貢献に努めたい。また、校内で行っている奉仕活動や花壇の整備も行い、他にできる身近なボランティア活動も考える。 ・図書館を学習の場として、多くの生徒が活用している。また、１、２学年との連携により、ＦＴでの読書時間を企画（１年生は毎週１回は読書、２年生は毎週１回は英字新聞を利用したＦＴ）した結果、貸し出し数が伸びている。 ・この数年間目標としていた生徒による主体的な委員会活動の取り組みは、委員自身が自覚を持つようになり、委員を継続する生徒が増加している。今後も委員生徒が、学習や部活動を図書委員会の活動とバランスよく実行できる体制を整えたい。	
達成目標	①“ボランティア活動に参加した”割合 参加者　90%以上	②生徒の主体的な委員会活動による生徒の読書量(全校生徒の年間貸出総数)の向上 ＊参考総貸出数 R5:1285 冊、R4:1252 冊
方　　策	・ボランティア委員会を中心に、校内でも行える活動を考えつつ、並行して外部からのボランティアの紹介を幅広く行い、参加者を募る。 ・災害募金活動等、全校生徒が情報を得やすい活動から取り組み、ボランティアに関しての知識や理解を深める。また、参加後の意識調査を行う。	・図書委員会での話し合いを通して、読書の在り方と啓蒙活動の推進を図りたい。具体的には、「図書館だより」「店頭購入」「読書会」などで、魅力ある情報の発信力を高め、生徒がより気軽に読書に親しむ機会を多く設けたい。 ・図書部内での話し合いと連携をさらに図り、業務内容の改善に努める。

令和６年度　福岡高等学校アクションプラン　―５―	
重点項目	その他（実践的英語力の向上と国際理解教育の充実）
重点課題	・CAN-DO リストを有効に活用し、英語の４技能をバランス良く伸ばす。 ・語学研修等を通じて英語実践力を高め、国際的な視野を持った人間を育成する。
現　　状	・英語を使った日常会話レベルの対話は、ペアワークやグループ内で出来るようになっているので、これからは話題に応じて、より深く、より詳しく、自分自身の意見や考えを表現できる段階に移行する必要がある。 ・英国語学研修に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響で、代替研修としてニュージーランドとのオンライン海外研修や、British Hills のオンライン研修を実施してきたが、昨年度５年ぶりに再開することができた。ただ、物価高騰や円安等の国際社会状況により経費がかなり増加したため、以前よりも期間を短縮して実施した。 ・ICT を積極的に導入するとともに、英語コースで培ってきた学習方法や言語実践活動を文系・理系すべての生徒にも授業実践を行っている。
達成目標	**①実用英語技能検定の取得率** ２年終了時までに　準２級以上　80％ 英語コース３年終了時までに　２級以上　90％ **②ＧＴＥＣ（コミュニケーション能力テスト）の得点** １年　690 点以上　80％ ２年英語コース　810 点以上　80％ ３年英語コース　900 点以上　70％ **③英国語学研修参加生徒の充実度** 研修全体を通して“とても良かった”割合　80％以上
方　　策	・CAN-DO リストに基づき、各学年における学習目標を明確に提示する。また、その成果を各種の検定結果を活用して、客観的な指標で測定や検証を行う。 ・国際社会状況の影響を受ける中でも、経費負担を考慮しながらより充実した研修内容となるように企画検討する。 ・研修の事前、事後の指導やアンケートを実施し、単発のイベントで終わらせず、更なる学習の動機付けとなるようにする。